

第1回東近江市政策推進懇話会 要旨

日時：平成30年6月26日（火）15:00～

場所：東近江市役所新館 319 会議室

出席者：委員 13 名

谷口 浩志座長	中村 哲委員	湯ノ口 絢也委員	落部 弘紀委員
黒川 重宣委員	井上 由美副座長	山中 則人委員	小椋 隆司委員
小杉 勇委員	藤本 治委員	大塚 ふさ委員	青地 弘子委員
黄地 正治委員			

（欠席：寺嶋 嘉孝委員 山崎 亨委員 高橋 容子委員）

事務局 5 名

企画部長	平木 秀樹
企画部次長	田口 仁紀
企画課管理監	瀧澤 和久
企画課 主幹	古川 暁
企画課 主査	松居 正人

開 会

〈事務局〉 本日は忙しい中、東近江市政策推進懇話会に出席いただきお礼申し上げます。また、委員就任を快諾いただき併せてお礼申し上げます。

平成27年度から「まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定して3年を経過した。この間、八日市駅前を中心とした中心市街地の活性化や、観光施策にも力を入れてきたところ。また、人口減少を少しでも食い止めるような定住移住施策にも取り組んできた。全国で地方創生の取組が進められており、地域間競争が激化する中において、時代に対応した施策展開を図る一方で、多様な地域が有する豊かな自然、長年にわたり育まれてきた歴史伝統などの地域文化を大切に、市民の誇りとしてさらに磨きをかけて全国に先駆けたまちづくりに生かしたい。

本日は地方創生に関する成果や、今後の課題などをお示しし、それぞれの御経験や御見識から御意見をいただきたい。

座長及び副座長選出

〈事務局〉 事務局一任の声を受け、座長に谷口委員、副座長に井上委員を提案。

〈委員〉 異議なし

座長及び副座長挨拶

議題

(1) 各種計画について

〈事務局〉 資料3（各種計画）説明

(2) 東近江市まち・ひと・しごと創生総合戦略及び東近江市定住自立圏共生ビジョンの進捗状況について

(3) 地方創生関連交付金の実績等について

〈事務局〉 追加資料1（人口移動の状況）説明

追加資料2（平成29年度東近江市地方創生施策の実績）説明

資料4（東近江市まち・ひと・しごと創生総合戦略進捗状況）説明

資料5（東近江市定住自立圏共生ビジョンの進捗状況について）説明

資料6（平成29年度地方創生推進交付金に係る事業実施結果報告）説明

資料7（平成29年度地方創生拠点整備交付金に係る事業実施結果報告）説明

資料8（地方創生関連交付金）説明

意見交換

〈委員〉 村田製作所での即売会の成果や状況を聞かせていただきたい。

〈事務局〉 当日の成果としては事務局では把握していないが、評判は良かったと聞いている。観光物産課で担当している。

〈座長〉 企業は市にとって単なるお客様ではなく、市民の一人、市の一部として係わっていただくことが有用と考える。

〈委員〉 東近江市では農家民泊に行政は関わっているのか。どれぐらいの人数を受け入れているのか。

〈事務局〉 東近江市での受入数は少ない。都会の子どもには田舎の普通の暮らしを体験することがとてもよい。子どもの話を聞いて、家族で市を訪れた事例もあった。

〈委員〉 市では積極的に取り組んでいるのか。

〈事務局〉 受け皿の開拓には時間がかかるため、積極的という状況ではない。

〈座長〉 移住定住とグリーンツーリズムを関連付けて実施している自治体が結構ある。長い目で見れば、都会で育った子どもに田舎の本当のよさを体験してもらうことは、少し大きさに言うと人口分布を考える上で大切と考える。是非、農家民泊との連携を考えていただきたい。

〈委員〉 観光入込客数が当初の目標を大幅にオーバーしたのは、何か特別な事情があったのか。

〈事務局〉 観光については、減ったところもあるが、駅前にホテルを誘致したことにより宿泊客が増加したところが大きく影響している。宿泊客については、駅前だけではなく他のホテルでも増えているということである。

〈委員〉 県内の移動の状況について、近江八幡市や愛荘町に対して転出超過となっている。東近江市にない魅力があって転出しているのか、どうとらえているか。

〈事務局〉 愛荘町は商業地周辺の新興住宅に住む方が多いと推測している。近江八幡市については、

一番大きな影響は JR 駅であることも考えられるが、実際はどういった理由で異動されているかまでは調査ができてない。愛荘町は地価も原因の一つと考えられる。

<委員> 東近江市内で宅造しても結構売れている。それでも愛荘町に移られるということは、もう一歩先に何かあるのかもしれない。分析のため転出される方に対してアンケートなどが必要ではないか。それによって戦略が変わる。

<事務局> 転入転出者にはアンケートを取っている。データを分析できる点は反映させていただきたい。

<委員> 能登川駅がある能登川地区に宅造をしていけば、京阪神・JRに近いということで定住に繋がるのではないかな。

<委員> 集合住宅はすぐに移れる、戸建ての場合は出たくても出られない。集合住宅に入っておられる方は思わしい物件があれば移動される。そういった流れを見ていく必要があるのではないかな。集合住宅に入っておられる方を如何に引き止めるか。実態としてどうなっているのかつかめないが、集合住宅が多い自治会では、出入りが頻繁で自治会運営がやりにくい。そういう実態も市内全体でとらえていく必要があるのではないかな。

<委員> 事実関係は不明だが、税金や税率のことが市外に出る理由になっていると聞いた。

<委員> 現在は、税率は変わらないのではないかな。

<事務局> 標準税率があるので、税率は変わらないと思われる。ただし、固定資産税が安いということはある。

<委員> 税金の話があれば、そのことで移動しようとする人が中にはある。

まちの魅力、認定こども園がたくさんあって、行こうと思ったら待機しなくてもいつでも入れてもらえる。高齢者で体が弱ったらすぐにデイサービス、訪問看護や施設が充実している、という今の時代に合った魅力のあるまち。観光もそうだが、布引運動公園にアイドルグループのコンサートを招致されて、初めて来られた人もたくさんおられた。こちらにも目を向けていただけることがあり、イベントや外部への情報発信は大事かと思う。

<委員> 地方創生事業の中で色々な事業で成功しておられる。個々のイベント、事業についても成果をあげておられると思う。市外の方々と話すと、東近江市は色々なことをしていると評価を受ける。その中で、農産物でも観光の方でも、いわゆるブランディングをどうやっていくかという話になってくると思う。そうした時に自分の強み、良さ、そういったものをしっかり理解し、誰に訴えていくのか、誰にPRしていくのか、戦略は非常に重要になってくると思う。どういう共通のイメージを売りたいのかというところをしっかりと持たなければならない。ブランド化とは、会社であれば長期に渡って利益を上げるための手法である。観光においても、長期に渡ってお客さんに来てもらえるとか、物産であれば長期に渡って愛着をもって買ってもらえるということ。そのためには、どういうイメージを作っていくのかをしっかりとしなければ、目指すところがぼやけてしまうのではないかな。

また、色々な事業が成功しているが、最終は何を目指しているのかということが見えづらい事業があるため、もう少し工夫していただきたい。この事業は観光客を増やすための事業、宿泊客を増やすための事業、登山客を増やすための事業ということをはっきりとしながら取り組んでいただきたい。事業は目的ではなく手段であると思う。

〈座長〉 御指摘のとおりと考える。最初は手探りで、どのような効果があるか予測できないこともあり得る。しかし、動向や効果を見たり、参加者の評価を受けることで、方向性のある程度絞っていかなければ、同じことを毎年繰り返すだけのイベントになってしまう。目標設定が、その事業の成果指標に直結してくると思う。始めた段階では成果指標をどこに置くかを迷うことも多いと思うが、いつまでも迷っているようでは困る。目標設定がハッキリ見えてくるように、事業は常に変えていかなければならないと思う。今後の取組にあたっては、是非留意していただきたい。

〈委員〉 子育て支援として、毎月 1500 円相当のオムツを宅配していただいている。しかし、これはオムツを宅配しているだけではなく、見守りオムツ宅配である。これが、若いお母さんにはすごく魅力がある。東近江市内の人は知っているが、他市町の人は知らないので市外の方と交流した時にいつも言っている。東近江市は、赤ちゃんと言えばオムツ宅配便。量の問題ではなく、その事業があるということが、若いお母さんにはとても魅力だと思う。どこかで、そういった発信ができればよいと考える。

〈座長〉 重要なことである。いい取組が本当に伝えたい人になかなか伝わっていない。市民の満足度を上げるということは大切であるが、定住移住ということを考えると、誰にこれを伝えていけばいいのかという視点も見えてくる。特に、外から来られる方々にさりげなく伝わるような手法というのもあるかと思う。

〈副座長〉 そこに住むということについて、実は住んでいるのは女性の方が多かったり、子どもは幼少期に住むエリアに深く関与しているのではないかと思う。御主人方は奥様方の要望を聞き、色々な選択をしているのではないか。稼ぎ手は外の状況をよく知っているが、地元のことや住環境といったことに敏感と思われる方々の意見を吸い上げていただきたい。

北欧の国では、日本でいう母子手帳を申請すると、国から出産に当たっての物品が届けられる。出産に向かって新生児に必要なものを一通り届けることを国が実施している。そして、生まれてから大学まで無償である。ただし、税率がとても高い。そのような国があると聞いているが、女性としては、自分が出産するというのを公に認められる、喜んでもらえるというイメージがあるのかと思う。若い女性が、妊娠出産、そこから子育てが始まるという大事業について、社会として、国として本当に喜んでくれているのか。そういったことも、産んでみようかな・育ててみようかなというところにつながると思う。

子どもがかわいくて、これから社会の子となっていくていただくためには、周りの温かい目や言葉、そういったものが必要ではないかなと思う。

先ほど、委員が発言したビジョンの中の大目標的なものが必要ではないか。合併からの10年というのは、とにかく「東近江はひとつ」になろうとしてきたが、最近、東近江に来られる方が、東近江市は各地区の特色があり面白いと言う。

また、これからの成長産業は何かという会話の中で、「健康」ではないか、自分たちが老後を迎えるに当たって、健康に長生きしたいという思いを共有していく世の中になっていくのではないか、介護にかからないために健康でいることが成長産業になるのではないかと仰った。東近江市には、まさにそれをできる環境があると感じた。身体的な健康、精神的な健康、インテリジェンスを高める心の満足のための健康、そういったものを非常に

多く素材として抱えることができている地域と思う。「健康に暮らす」をテーマの一つにすると、安心安全で新鮮な食を得られる。山に登ればいい景観と、体力維持もできる。そのようなことで、住んでいる人たちが、「いいな。」という風に思ってください。

香川県から、万葉の森船岡山と市神社の2か所を回られただけで帰って行かれた。このように、東近江にピンポイントで来られる。それだけ重要に思われている、万葉の御縁がある土地であるということは知っておいていただきたいと思う。

〈座長〉 おそらく、市内の人たちは万葉という言葉聞きなれすぎて当たり前のことになってしまっているのではないかと思う。万葉のことだけではなく、様々なことにそのような意識があるかもしれない。しかし、外から来る人には、常に新鮮な状態でそれを提供することを心がけること、初めて来る人にとっては、全てが新鮮であり、それをいかにアピールするかがポイントになると思う。常にその点を意識しながらプロモーションをかけることも大切かと思う。

〈委員〉 地方創生推進交付金事業で、大阪の茶屋町やあべのハルカス等で、農産物のPRやパンフレットの配布などを行っているが、イベントの来客が、どれぐらい東近江市に訪れているのかわかるような仕組みはあるか。

〈事務局〉 本市への来訪に繋がった人数は把握していないと思われる。

〈委員〉 マルシェや野菜販売は、他府県に行くものも多く、そこで販売して完結してしまっていることが多い。せっかく事業をするのであれば、購買者が東近江市に来訪する動向などがわかれば一番と思う。販売と同時にパンフレットを渡すだけであれば、見て終わって捨ててしまうことがとても多く、もったいない。東近江市の魅力を伝え、住みたいと思われる取組をお願いしたい。

マーガレットステーションがきれいになったということで、昨年までと比較して集客数や来場者数に差が出ているか。

〈事務局〉 最新の数値までは把握できていない。昨年は改装していたため、全体としては人数が下がっている。前年度までは毎年伸びており、今回の改装でもう少し伸びると思われる。

〈委員〉 紅葉シーズンなどは、他府県から多数の来客があるが、それ以外の時期は一気にもものが売れなくなったりする。整備と同時に、通年で来てもらえるような工夫も考えていただきたい。

〈座長〉 こういった事業について、結果としての数字、あるいは傾向など、数字が示せばエビデンスとして最も的確であるが、何か根拠のある効果を表せると、次の励みにもなると思う。

〈事務局〉 マーガレットステーションの事業実績資料にKPIで数値を付けており、施設の売上げや客数は把握するようにしている。来年度には少しお示しできると思う。

〈座長〉 色々なプロジェクトにおいて、そういった見方をしながら計画を進める、あるいは実行するということが常に意識していただきたい。

外向けにイベントで販売などを行った際に、本市を来訪されたことが掴めるような仕組みが考えられないか。

〈委員〉 宿泊客等誘客の仕組みづくりの中で、大会やコンベンションの開催誘致については重要

で必要だと思う。

中心市街地の店舗で、何かブランド化された売りがあればよいが、そういうところと誘客を結び付けるのも一つの手ではないか。空き家や古民家で事業をする人が長続きするような支援が必要ではないか。

〈事務局〉 そのような店舗のためにも、宿泊客を入れて人の流れを作っているところ。店舗の経営まで市が立ち入ることはできないが、経営者の努力という部分もある。今後どのように変わっていくか読めないところもあるが、中心市街地の活性化に力を入れているところである。

〈委員〉 宿泊客の誘致の仕組み作りとしてホテルが示されているが、ホテルの前は延命新地である。延命新地で飲食もできるし、再開発は考えられているか。延命新地がにぎやかになることによって、東近江市に行ってみようかという方もあるのではないか。本町商店街も活性化することによって、お互いに効果が出てくるのではないか。

〈事務局〉 市では、国の交付金を活用して新地の再生を考えている。道路の美装化や、景観協定を作って統一的な景観で改修された場合の補助金などに取り組んでいる。各自治会からの代表に集まっていただき、景観協定を作成しているところである。路地の美装化についても設計に着手している。

〈委員〉 外部から見た東近江市のことを考えると、例えば住みやすさランキングがあると思うが、東近江市は平均にいいのか、上にいいのか。

〈事務局〉 議会の質問でもあったが、随分下であった。ただし、例えば下水道の整備状況については、東近江市のように農村下水道で整備された地域はカウントされていなかった。都市的な部分での数値と考えられる。違う側面では、子育て施設に投資した市町村ランキングで、東近江市は全国4位という位置付けであった。ランキングで上位になったことは、先ほどから委員が言われているようにPRに使っていきたい。

〈委員〉 子育てには予算を投資しているような、良いところの情報発信が大切ではないか。

〈座長〉 若い方が住み続けてくれるためにもそういった視点は大切である。これからの人口問題を考えていく上で非常に重要なことであると思う。特に、東近江市は高齢者人口が思った以上に増えて、子どもの人口が減っているということもあるため、子育てに特化したサービスの向上が今後どのように変わっていくのか楽しみにしたいところである。

〈委員〉 子育てについては、本当に充実していると感じたところである。私は市外から入ってきたので、違う目で見ることができると思うが、東近江市が大好きである。自分の住んでいる地域も年配の方々が多くおられるが、地域で楽しんでおられる。若い方が住まれないのは、交通の便であるとか進学のことであってなかなか帰ってこれないというところがあると思うが、ひとつひとつの良さというものをピックアップしていく必要があるのではないか。

もう一つは繋ぐことも必要である。延命新地を良くしようと思うのであれば、延命新地に行くような機会づくりも必要ではないか。婚活を進めようと思うのであれば単発的ではなく、継続することが必要ではないか。婚活で登録されている方の繋がりをつくるために、延命新地を回るようなイベントを、来られる方だけでもやればもっと活性化するのはな

いか、先が見えてくるのではないかと考える。イベントが単発的で、いいことをやっていたらいいと思うが繋がりが無いように感じる。組織的にも繋がっていないように感じる。繋がることでもっと楽しい東近江市を作ることができるのではないかと考える。

〈座長〉 色々な情報を何かの機会毎に出しているとはわかっているけど、いつ誰がやるかということになると他人事になる。婚活という視点から見ても延命新地の体験でも良いし、農家民泊で農業を体験することも考えられる。市内に住んでいる人でも知らないことがある。そんな体験ができることをどんどん増やしていくことも面白いと考える。

〈委員〉 永源寺町時代に木地師村構想の作成に参加させていただいた。木地師のことについては、東部地域で未だに心の中にある。いろいろ新しい動きがあるが、政所町の旧小学校を活用して、演劇やダンスチームを運営する会社が来る。そこを使って何かされるという情報を聞いている。色々なことが入ってきているから、大きな絵を書く必要があるのではないかと。大きな絵の中で、この活動はここと結び付けよう、ここと繋がったらどうかといったことを描けると良いと考える。

〈座長〉 それぞれ活躍されているところを繋ぐ役割があると良いということ。大きなことをやるのも大事だが、繋がりを作るといった作業も非常に意味がある気がする。次に向け是非検討いただきたい。

〈委員〉 地方創生の交付金の評価になると思うが、森林組合も SEA TO SUMMIT やブランディングなどに関わっている。東近江市にはアイデアマンがいると感じる。感心するようなイベントをされている。森おこしについては、東近江市にある自然の魅力発信をアピールするプロジェクトとしては大成功だと感じている。継続性、交付金が無くなった後、奥山地域の活性化、そういったところで活躍できる人を存在させるには、そういった人が自立して生活できるようなことが大事であると考え。地元広葉樹の家具については、まだ試作品ができたところで、始まったばかり。ブランド化して商品としてたくさん販売できれば良いが、こういった部材を素材生産として継続していく必要がある。

成果指標で、地元木材の搬出量があるが平成 26 年度が 5 千立米、平成 29 年度末が 7,735 立米、平成 31 年度の目標値が 1 万立米ということで順調に生産量が上がってきているように一見見えるが、作業効率が上がってきており、少ない人数で多く生産できるようになっている結果である。林業の機械化が進み、効率よく生産できるようになったが、林業の従事者は増えていない。限られた人数で効率よく頑張っている状況であり、現場は疲弊しているところもある。奥山を活性化させるには人が必要であり、森林に関わる人がもっと増えていかないと活性化していかない。

〈座長〉 昔の映画で体験を通して林業の従事者を募るといったものがあつた。手法はいろいろあると思うが、よさをアピールできる場も是非考えていただければと思う。

具体的な提案まではいかないが、それぞれの立場から色々な提案や意見をいただけたのではないかと考える。これを基に今後の計画を立てていただくことになるが、評価の材料としてもらいたい。

〈事務局〉 非常に多くの意見を頂戴した。今後の施策にも反映できるよう担当課にお伝えする。

〈委員〉 様々な事業に取り組んでいるが、東近江市には多様な地域資源がある。その多様性が東

近江市の特徴である。それに光を当てる、磨きをかけるということで、様々な施策に取り組んでいるところである。いずれ、事業の有効性の評価をしていく必要が出てくる。委員からはブランディング戦略として絞っていく必要もあると意見が出されたが、副座長から健康というキーワードで括ってはどうかと提案があった。様々な事業に健康というキーワードで横軸を差すという感じに捉えた。健康にプラスして自己実現ができるまちというような横軸がないかとも考える。例えば自然に触れることができる、歴史文化に触れる、農のある生活ができるなど、自己実現できるまちが東近江市であるといった横軸がさせないかと感じた。

〈座長〉 今後ますます東近江市のために、いろんな形で関わっていただかなければならないと思う。よろしく願います。

最後に一点だけ申し上げる。東近江市の一番大きな特徴は、行政の職員が、地域で頑張っている色々な人たちとの横のつながりをもものすごく密にとっている。そして、そういったところから意見を吸い上げてきて、事業の計画に生かしている。あるいは現場にまで行って、色々な話し合いをしていく中で次の一手を見つけていくというようなことで、非常に精力的に動いておられる。そういった姿勢を今後も是非続けていただき、是非ともよりよい計画づくり、そして政策の実践というところで邁進していただければと思う。

その他

〈事務局〉 次回は、総合戦略と共生ビジョンの改正等について、2月又は3月で会議の開催を考えている。次回もよろしく願います。

(終了)